

武蔵野市第五期基本構想・長期計画策定委員会（第1回） 要録

- 日 時：平成22年8月31日（金） 午後7時～9時34分
- 場 所：武蔵野市役所802会議室
- 出席者：山本委員、見城委員、松本委員、前川委員、近藤委員、会田委員、井上委員
市長、企画政策室長、企画調整課長、政策調整担当課長（兼副参事（歴史資料館開設準備担当））ほか

<配布資料>

次第

- 資料1 第四期基本構想・長期計画
- 資料2 第四期長期計画・調整計画
- 資料3 地域生活環境指標
- 資料4 第五期基本構想・長計計画策定委員会設置要綱
- 資料5 第五期基本構想・長計計画策定委員会委員名簿
- 資料6 第五期基本構想・長計計画庁内推進本部設置要綱
- 資料7 第五期基本構想・長計計画策定委員会ワーキングチーム設置要綱
- 資料8 第五期基本構想・長計計画策定のための組織概念図
- 資料9 第五期基本構想・長期計画の策定方針について
- 資料10 第五期基本構想・長期計画 策定スケジュール案
- 資料11 事務局名簿
- 追加資料 武蔵野市の骨格をつくった長期（総合）計画
- 追加資料 武蔵野市の将来を考える市民会議設置要綱

1. 開会

2. 委嘱状交付

邑上市長より、見城武秀氏、近藤康子氏、前川智之氏、松本すみ子氏、山本泰氏に委嘱状を交付

3. 市長挨拶

邑上市長より挨拶

4. 委員自己紹介

5. 事務局紹介

(市長公務のため退席)

6. 議事

(1) 委員長、副委員長の選出

【事務局】(委員会の設置要綱について説明)

第3条は組織に関する規定で、「委員会は、次に掲げる委員で構成し、市長が委嘱し、又は任命する」。

1号が「学識経験を有する者 6人以内」。2号が「武蔵野市の将来を考える市民会議設置要綱に基づき設置された武蔵野市の将来を考える市民会議の市民委員のうち、市長が指名した者 2人以内」となっている。これが7月26日に設置された会議で、9月までの活動期間に計5回開催する。武蔵野市の将来について課題等を抽出し、委員会に報告いただく。ただ、この市民会議会から選出される策定委員については、本日までに決まらなかったもので、本日は出席されていない。

委員長等の互選については、いかがいたしましょうか。

【委員】 長期計画策定について3回のご経験がある、山本委員が委員長として最適なのではないかと考える。

[各委員賛成]

[山本委員、委員長席に着席し、挨拶]

【委員長】 市民会議選出の委員が決まっていないとのことなので、きょうのところはとりあえず委員長を務め、設置要綱の第3条の(2)の市民会議の委員が選出されてから、再度、正式に委員長を決めていただくということにさせていただきたい。

基本的に策定委員会というのは、委員会の委員会と言われている。武蔵野市においては、さまざまな市民委員会が伝統的に機能している。市の職員も、いろいろな制度や政策について委員会等をつくって、その報告書もたくさんある。約50の委員会があるが、それらの上に立って統括するのが策定委員会で、テーマは森羅万象に及ぶ。

非常に幅が広く、しかも10年先をにらんだ仕事をしなければいけないということで、かなり負担が重いように思われるかもしれないが、専門の委員会や職員の方々が検討されたことの上に乗って、そういうものを施策の形で位置づけるとか、優先順位をつけるとか、整理をすることが1つの我々の仕事になる。この冊子に載ると、期間中に事業化される可能性が高く、基本的にはこれが10年にわたる設計

図になっていく。市からヒアリングをしたり、市民委員会からもご意見をいただいたりしてまとめていく作業をするが、もう少し高いところから長期的に見て、これから10年間、武蔵野市はどういうビジョンが必要なのかとか、こういうことを各委員会で議論していただきたいというアジェンダ・セッティング、見通し、まちの課題を定義するとか提案する。その2つをバランスよく見ながら、1つの形にまとめていくのがこの委員会の仕事である。約1年かけて、大体月に1回程度会議を開催し進めていくので、1年間、どうぞよろしくお願ひしたい。

副委員長の選出については、公募市民会議からの策定委員が決まり、全員がそろそろ次回の委員会で、互選で決めさせていただきたいと思うが、よろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

【委員長】 それでは、次回以降に決定させていただく。

(2) 策定委員会の運営について

【事務局】 (策定委員会の運営について説明)

お諮りいたしたいのは、策定委員会の公開等についてである。1点は、公開か、非公開か。2点は、傍聴の可否。3点は、議事録は公開か、非公開かで、この点につき、委員会でご決定いただきたい。

【委員長】 策定委員会は基本的に公開し、傍聴を認める。また、議事録については、今までとおり、委員長、委員という形で要録を公開する。

これ以外に、庁内からヒアリングを受けるとか、市長と懇談等については、非公開でやらせていただく。しかし、そのようにしてまとめたものは、基本的に策定委員会にかけて決定するので、その決定する場面は公開ということになる。

公開の是非については、必要に応じて、その都度、議論し決めるが、原則はそのようにしたい。ホームページ等は、どういう形になるのか。

【事務局】 ホームページには、この策定委員会でご議論いただく資料もすべて公開し、要録もなるべく早く公開する。なお、要録の内容については、委員にご確認をお願いする。

【委員長】 公開等については、そのようにさせていただきたい。

(3) 庁内体制及び策定スケジュールについて

【事務局】 (庁内体制及び策定スケジュールについて説明)

【委員長】 市長に答申するのが23年9月で、これは10月の議会にかけるのか。

【事務局】 はい。

【委員長】 我々がつくるのは答申案で、基本構想・長期計画は市長が定めるが、これまで武蔵野市の歴史の中で、策定委員会がつくった答申案が市長案になるときに中身が変わったことはないので、実質的に市長がそれを受け取ってもらえるものでなければいけない。別に市長が気に入るものをつくらなけ

ればいけないという意味ではなくて、やはり市長を説得するプロセスも入ってないといけない。いきなり市長がもらって、それを市長案にすることはなかなか難しいので、そのプロセスも必要だ。しかも、基本構想の部分は議会の議決を経て確定するので、議員さんにもご理解いただけるものでなければいけないし、説得する段取りも必要だということになるのか。

【事務局】 はい。

【委員長】 すると、かなりいろいろなことをにらみながらやっていく必要があるが、考えるより行うほうが易しいので、余り深刻にならないように、よろしくお願ひしたい。

庁内体制及び策定スケジュールについて、ご感想なりご意見を。

【委員】 ワークショップのイメージがわからない。1000人集めて、その中から50人から100人をピックアップするということだが、だれが主催して、どういう目的でやるのか。公募市民会議との違いは何なのか。

【事務局】 ワークショップは、市が主催し、多くの市民の日常生活の中での直感的な意見をいただく場であり、公募市民会議とは議論の内容が若干異なると考えている。

【委員】 ワークショップでさまざまな意見が出たことに対して、この策定委員会は縛られるのか。

【事務局】 多くの市民の方のご意見なので、私どもを通じて、こういうご議論がありましたということとはご報告させていただく。ワークショップだけではなく、市議会議員や他の市民会議からの意見等も全てご勘案の上、策定委員会で答申案につなげていただければと思っている。

【委員】 策定委員会も、たかだか8人、行政の専門家の方を入れて10名でやるわけで、市民全部を代表するはずはないので、そこで既に一定の思惑が決められた中で発言して、まとめられていくわけだが、それに対して、ワークショップは広く市民の声を求めましたよというポーズをするために行うのか、市民の声を聞くということは正しい方法だと思うが、どうも1000人、3回というやり方が気になる。

【事務局】 他市でも、こういう形の無作為抽出をやっている実績がある。私ども、ワークショップはいろいろな形でやってきたが、無作為抽出で市民の方にお声がけをしていくことはなかなかできていなかったもので、それが次の市民自治につながっていくのではないかという観点もある。

【委員長】 ある意味、どれにも縛られないという意味では、市民の新しい活動を掘り起こすという趣旨だと。

【事務局】 はい。

【委員長】 2回目、3回目のワークショップは、声をかけられた方も、何を言われているのかわかって、こういうのが来たから市報を見ようかという気に初めてなるが、1回目は、何を言われているのかわかりにくいと思う。

第四期の基本構想の冊子の中に、「都市の窓を開こう」、「新しい家族を育てよう」、「持続可能な社会をつくろう」という標語があるが、これはどうやって決まったのか。10年間通じる、古くならない言葉というのは、ある程度のあいまいさと、ある程度の方向づけを持っている言葉でなければならないし、

結構難しい。ワークショップが、そういうを集める場になるといいと僕は思う。

【事務局】 今、企画を練っている段階なので、各委員からいただいたご意見も踏まえ、考えていきたい。

【委員】 無作為抽出は、広く市民の方の意見を聞きたいという意味ではいいのかもしれないが、曜日や時間帯の設定の仕方で、結果として無作為ではなくなってしまうのではないか。その辺をかなり意識して設定していただく必要があるのではないか。みんなの意見を聞きたいとなると、それぞれの方たちの事情が違うので、1回で満遍なく聞くというのはなかなか難しいと思う。

【委員】 ワークショップをやるときに大事な点が幾つかあって、結果をどう使うのかとか説明をどうするかという問題。また、実際に集めた結果をどう生かすのか、捨てるのかという見極めをきちんと論理的にやっていくという点だ。

(4) 武蔵野市の長期計画について

【事務局】 (武蔵野市の長期計画について説明)

課題はたくさんあると認識している。策定システムの定着が生む課題とか、何でもかんでも、それは武蔵野方式だ、武蔵野らしいんだというふうには逃げ込んでいる面もある。独自政策、開発・運営のエネルギーの不足、財政的に他の自治体に比べて安定していることからくるハングリー精神の不足、そういうことに対する刷新とかチャレンジを考えていかなければならないと思っている。

あれだけ事業集が膨らんでいくと、今後は事業ごとに対しては個別計画での進行管理が非常に大事になってくると思うので、施策とか事業の束としての政策効果について、総合計画、長計のレベルでは考えていかななくてはいけないだろうと思っている。今調査しているのは、今の調整計画で出ている事業、施策についてのやった、やらない、それから、検討中だというようなことで、これは第3回にご説明をさせていただこうと思っている。

本質的には、やった、やらないとかではなくて、目的に対して効果的な政策だったのかという議論を、本当はこの委員会ではお願いしたい。待機児童を20人減らしましたというような議論はもちろん大事だが、それは個別計画レベルでやるとして、その施策を立てたことが本当に政策効果があったのかどうか、もっといい方法があったのではないかという大枠の議論を、この委員会ではやっていただきたい。

【委員】 個別計画と、今回策定する基本構想・長期計画の関係だが、既に策定されている個別計画の中には、10年単位で決まっているものがあるって、10年先には今度の新しい基本構想・長期計画とかぶってくる部分が多分出てくる。その場合に、もう既に決まっている個別計画について、方向修正しようというようなことは、この委員会で言えるのか。それとも、既に決まった個別計画は最大限尊重して、それを前提とした計画を立てる必要があるのか。

【事務局】 長計は上位計画なので、もちろん言える。それが委員会の委員会たるゆえんだ。

【委員】 逆に、個別計画は、基本構想・長期計画から外れたことは書けないことになるのか。

【委員】 次の時期的な問題はあと思う。つまり、長期計画はこれからつくるわけだが、長期計画と同時に動いていく個別計画もある。一部の市議会議員の中には一緒にすべきという議論があるが、何も一緒にする必要はない。個別計画の中で長期計画よりも先行して物事を動かしているところについては、先ほど企画政策室長が答えたとおり、その逆の場合だってある。基本構想・長期計画のほうが先行して、その後に個別計画がローリングの時期を迎えてくる。そういう中では個別の計画のほうが新たな情報を吸収して、逆にこれを長計のほうに投げかけていく。つまり、調整計画の段階で、長期計画の後半部分の段階で必要な修正があるのならば、逆にフィードバックをやる。相互の関係性というのは、当然そこで出てくるわけで、インタラクティブな関係はある。

【委員】 今回は基本構想と長期計画と両方やっていくが、昭和46年からの基本構想というのは、ある意味では武蔵野市の哲学で、市長がかわろうと市議がかわろうと、例えば緑ということが表現され続けてきたのは市民として非常に喜ばしいことで、その辺はもっと市民に伝達していかないといけないと思う。

ただ、長期計画というと、10年というのが果たしていいのかどうかという議論はあるのではないかと。10年というのが、昭和46年ならいざ知らず、今日ではちょっと長いのではないかと。

【事務局】 基本的には市政選挙とリンクさせないと意味がないので、4年というサイクルは譲れない。今回の場合は、10年で計画を立てて、4年目でローリングをかけて重ねる形なので、事実上は8年計画となって、選挙にリンクさせる。基本的には基本構想は10年、事実上の長期計画は5年で立てていただいて、4年ごとに見直していく。

基本構想は、先に考えても宙に浮いた議論になってしまうので、基本計画の骨格を固めた上で、これのエッセンスはこういう表現だという形で、今までつくってきた。

【委員】 長期計画は5年ないし12年ないし4年のローリングというのはわかるが、基本構想というのは組織でいうとビジョンで、ビジョンは計画が変われば変わるものではないし、ビジョンに基づいて計画が立つという発想がある。しかし、今のお話だと、もし基本構想、イコール、ビジョンだとしたら、長期計画ごとにビジョンが変わるのか。

【事務局】 民間企業と違うところが選挙で、基本的には選挙ごとにそれが争点になる。当然前の市政を否定した上で選挙は戦うので、それをどう持続させるか。緑とコミュニティの原則を貫いてきたのは、実はすごいことだと思う。緑に金を使うなら福祉に金を使えとか、児童館をつくれとか公民館をつくれと、今もずっと言われ続けているが、それはコミセンでやるべきだということを4代にわたって市長が言い続けてきたのは、それがコンセプトとして、ビジョンとして、事実上、生きてきたということだ。ビジョンの継続性というのは、自治体とか国の政治を見ていると、非常に難しい課題だと思う。

【事務局】 ただ、民間の方と比べてスピード感という問題は確かにあるのかもしれないが、行政の中で継続していくという重みが物すごくある。やはり一定のぶれない軸を持っていく必要があるのだろう。それが長年貫かれてきて、今の武蔵野市につながっている。

【委員】 それはちょっと裏腹で、ある市民の方が「長計事項と書いて先送り事項と読む」と言っていたが、やはり時代は変わっていくので、スピード感を持たないと、生活とマッチしていかない。

【委員長】 最近では過去の遺産を食っている面があって、新しいものが余り出てきていない。だから、そろそろ新しい軸を立ち上げないといけない。

(5) その他

【事務局】 次回は、施設の視察をしていただきたい。10月4日(月)に設定する。視察先と詳細な日程については、後日ご連絡申し上げたい。次回は、市民会議からの策定委員も参加する。

【委員長】 なるべく早目に、策定委員会と市長の懇談会を設定していただきたい。

(了)